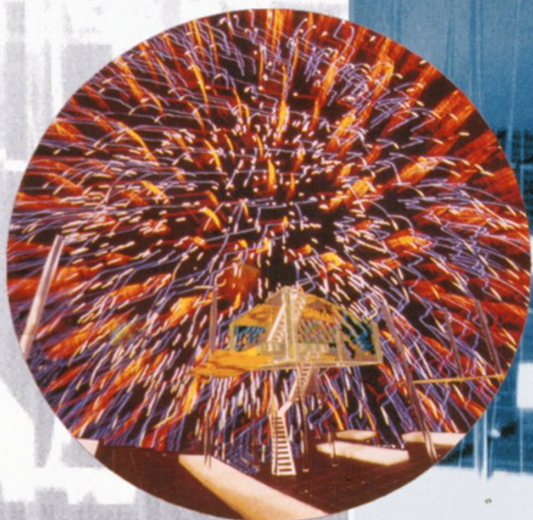
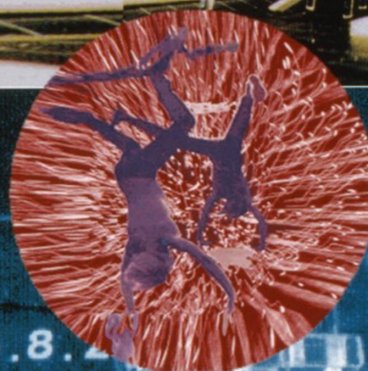
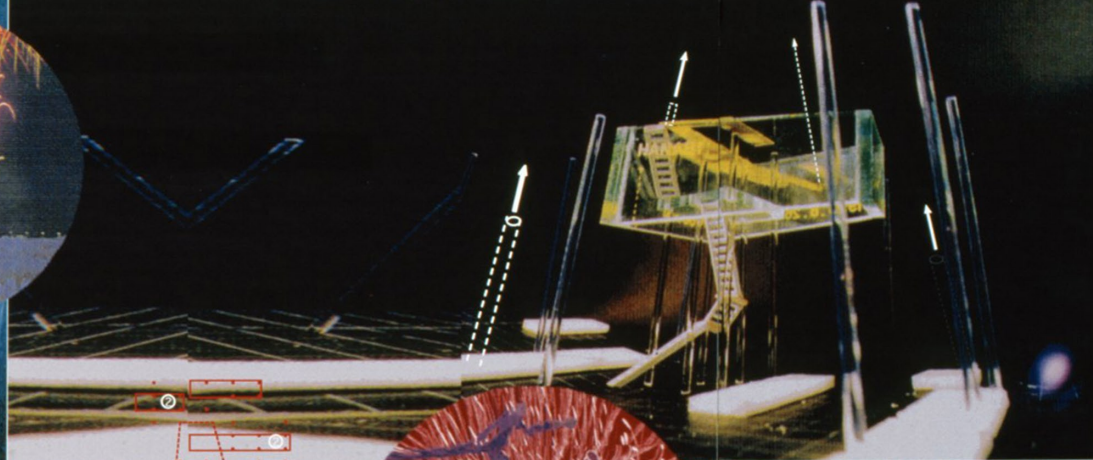


① 今まで行けなかった場所、新しい体験場、ドーンとなった花火を真下からも見てみたい。



②

ウォン・カーウアイの映画は透明人間の体験のようだ。起こりうる出来事に対してのぞき見るのではなく、視点が空間に参加している。それはあらゆる場所に体験の可能性がある、その不連続なあらゆるシーンを蓄積し、つなぎ合わせることでよりそれぞれの場所がイベントに参加する。



① 花見ポイント
② 打ち上げポイント

③ 花火大会を体験する為、安全性の面から失われていた真下（打ち上げポイント）に、その被膜にFIRELITEを使用し透明性と防火性を兼ね備える花火見櫓(やぐら) という場所を作る。そこでは空を覆う巨大な夜花が降ってくるに違いない

④ 高層ビルから、近くの河原から、花火を打ち上げるところから、あらゆるシーンが選択可能な（そして交換可能な）、「'96素敵な花火大会」を提案する